

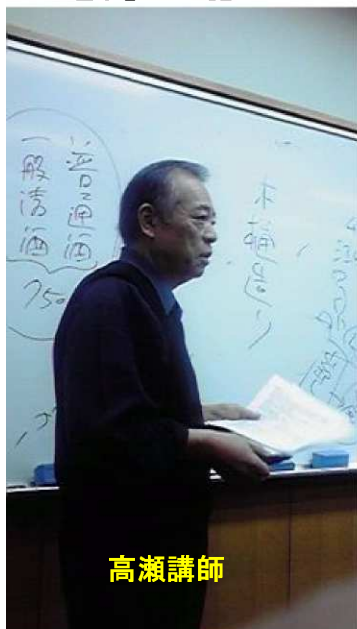
第11回CSNサロン  
と忘年会

## おいしいお酒はこうして造る 第2弾

平成 23 年 12 月 6 日 15 時～17 時 オリンピック記念青少年総合センター会議室  
18 時～20 時 新宿「酒処 吉本」

平成 23 年の最後をかざる行事、CSN サロンと忘年会が開催されました。

ゲストスピーカーは、日本酒に造詣の深い漫画家 高瀬 齊氏です。高瀬氏には、1 年前のサロンで「酒造り」のお話をさせていただきました。それが実におもしろく、ぜひ続きを聞きたいとの要望が多く、



高瀬講師

CSN 講演では初の二度目の講演となりました。

前は、米・麴・アルコールなどの原料、酒造りの技法などを主にお話しましたが、今回は全国の酒蔵がどんな努力をはらって今日のうまい日本酒を作りあげてきたか、その歴史を教えてくださいました。

全国の蔵元数は、日本酒の消費量の減少に伴って減り続け、2009 年では 1975 年比で半減（消費量は 6 割減）しました。そんな厳しい経営環境のなかにあっても、蔵元の後継者たちは伝統を活かしつつ技術改革に努め、いまわたしたちは史上最高の「おいしい酒」に恵まれているそうです。

たとえば、精米技術が向上して、最近では精米歩合 90%のものもあるとか（島根の「開春・1 宛（おん）」）。吟醸酒向けの 50%でも、精米時間は 110 時間もかかると聞き、驚きました。

また、よく見かける「山麴」という表示は、酵母菌を育成する生酛法のひとつ「山卸麴止酛」の略で、明治時代に開発された古い技法を後継者たちが再現して、昭和 30 年から 40 年にかけて普及させたものだそうです。この頃といえば、わたしたちの飲酒人生の開始時期と合致し、なるほど「おいしい酒」に恵まれているという背景が納得できました。



高瀬講師の解説は、白板いっぱいには繰り返り広げられます。左側から右へ、さながら「酒づくりにみる日本近代技術発達史」のようであり、技術の変遷を絵巻物で俯瞰しているようにも思えました。

2 時間があっという間にたち、会場を空けなければならないため、今回もまたお話を切り上げてもらわざるをえませんでした。参加メンバーから、「まだ、質問したいことが山ほどあるのに…」との声があり、どうやら、来年も第 3 回目が必要になりそうです。

## 第10回 OSNサロン報告

### 古くて新しい微生物

# “酵母”は凄い！

今年度上期の CSN サロン(年2回開催)が、6月6日15時から国立オリンピック記念青少年総合センター会議室で開催されました。



今回のゲストスピーカーは、宮川都吉広島大学名誉教授です。分子生命機能科学専攻で、酵母の研究では第一人者として知られています。

ご講演のテーマは「古くて新しい微生物“酵母”の話」。

前半は有用微生物としての伝統的な酵母像を、後半は生命の仕組みを解くモデル生物としての酵母像、をお話してくださいました。

実は、事前に送っていただいた講演レジメを拝見したとき、化学式と専門用語がならび、かなり高度な内容だったので、先生に「難しい話は抜きにしてください」とお願いしようと思いました。

しかし心配は無用、とてもわかりやすい説明でした。前半の話題は、古くから日本酒、ビール、

ワインなどお酒づくりに利用される酵母をめぐるものです。なじみ深い話題だけに、質問もいくつもできました。後半では、酵母を利用する研究から、ヒトのがん、遺伝病や老化の理解が深まり、酵母は生命科学や医学の研究に大きな貢献ができるようになったその理由について、明快簡明に解説してくださいました。

講演を聴き終えて、二つのことが印象に残りました。ひとつは、酵母にヒトの活動源ともいべきエネルギーの素が含まれていること、ふたつ目は、酵母が遺伝学・生化学・分子生物学の進展に寄与したのはつい最近であり、宮川先生が研究者のスタートをきったころには、まだなかったということです。

先生のご専門は、酵母の特性を利用した医薬探索だそうです。これも、興味深いテーマであるので、またお話しただく機会を作りたいと考えています。

講演後は、18時よりセンター内レストランで懇親会をもちました。宮川先生は、いまでこそ分子生命機能科学、むかしの名前で発酵工学、さらに西日本の造り酒屋の子弟の多くが学んだ広島大で教鞭をとっておられたので、かなりお酒もいけるそうです。酵母＝アルコールの頭しかないわたしたちに、発泡酒は原料表示をよく吟味して選ばなければいけないなど、ここでもまた、ためになるお話をうかがったのでした。

## 第9回 CSN サロン報告

### 講演 日本酒の文化を語る

本年最後のイベントとなる第9回 CSN サロンが、12月6日 15時よりオリンピック記念青少年総合センター会議室で催されました。参加者は16名です。

今回のゲストスピーカーは、漫画家で日本酒と料理に詳しい高瀬 齊氏です。全国の蔵元と交流があり、これはというお酒が出来ると評価を求めて氏のもとに送られてくるので、ご自宅の冷蔵庫は銘酒であふれているとのウワサもあります。

お話は、日本酒そのものについて意外と知られていない、ということでお酒の種類や歴史から入りました。たしかに、ワインやウイスキーに蘊蓄があっても、日本酒について語るほどの知識を持っていないことに気づきます。外国に行って、日本文化とはなんぞや、禅や茶道について教えてくれ、日本のお酒はどうだ、と問われて答えに窮してしまいそうです。

お米、酵母、灘の宮水に負けない軟水醸造法などの開発の歴史を教えてくださいましたが、高瀬氏は全国の造り酒屋のほとんどに足を運ばれているので、この方法をいまでも伝承しているのはどこどこ蔵元である、と例示がいちいち具体的なので、聞いていてあきることがありません。

筆者が興味をそそられたのは、精米方法の進歩とお酒のうまさの関連です。精米は、手こぎ→水車→機械精米機と発展し、精米機も現在の縦型が発明されて“うまさ”も生産量も飛躍的に伸びたそうです。物理的ともいえる機械の進歩が官能的な“うまさ”の向上を支えていることが不思議に思いました。

あっという間に2時間がたち、きょうのお話でもじゅうぶん知識を得ましたが、「もっと聞きたい」と参加者みなさんが思いました。杜氏・最近のお酒の旨さ・飲み方・・・聞きたいことはまだまだあります。そこで、講演には珍しく、第2回として続きをやっていただくようお願いしました。

日本酒の世界の奥行と幅の広さを知ったひとときでした。

今回の講演に、非会員の宮川都吉氏が「日本酒の話をぜひききたい」と参加されました。宮川氏は、酵母の研究者で酒どころの広島大学で先端物質科学研究所を担当されました。ここは、物理学と生命工学を融合した新しい分野を拓く組織だそうで、いずれ、それをテーマにご講演いただきたいと考えています。



## 第8回 CSN サロン報告

### 岬 麻紀氏講演「プレゼンテーション・スキル」とは

開催日時：平成22年6月7日 15:00~17:00 会場：オリンピック記念青少年総合センター

今回のサロンは、はじめて講師に女性を迎えました。司会者の指導・育成、企業研修のインストラクターをてがけておられる株式会社ポリッシュ代表の岬 麻紀氏です。(参加者 16名)

事業の拡大にともない、部外者にわたしたちの技術を提案したり講演をする機会が増えてきています。ところが、わたしたちの説明・発表は、専門用語・略語を多用する、発声が不明瞭、表現に工夫がないなどと言われることがあります。専門家間では通用しても、わがCSNのめざす「市民や地域の視点に立つ」という観点からすると、聞き手にわかりやすいプレゼンテーションになっているとは言いきれません。

そこで、そのスキルを岬氏に教えていただきました。

話し手が、自分の意見や情報を聞き手に伝えるには、ことば・声・身体の中の三つのチャンネルによりますが、印象形成のもっとも大きい要素は、「ことば」ではなく「身体(表情・視線・身振り手振り・態度・姿勢・身だしなみ)」だそうです。わたしたちは、言葉だけにこだわりすぎている、相手の気持ちを身体全体で感受したり、こちらも身体全体で感応することが大切、と学びました。



講演の1時間半、よく通る明瞭な声ときりとした姿勢はいささかも変わらず、じつに熱意のこもったお話しでありました。「おひとりも眠らずに聞いてくださり、ありがとうございました」と結びのことばを耳にして、もう一つ学びました。「そういえば、ちっとも飽きなかったな」と。



講演終了後、会場をセンター内のレストランに移して懇親会をもち、楽しいひとときをすごすことができました。

〈岬 麻紀〉というお名前は、ペンネームのようですが、本名だそうです。

## 【第7回 CSN サロン開催報告】

### 地下鉄の父、早川徳次を語る

第7回 CSN サロンが、12月7日（月）15時から例会場のオリンピック記念青少年総合センター105会議室で開催されました。出席者17名です。

今回の講演は、会員の君島光夫氏による「地下鉄の父・早川徳次の事業展開とその評価」です。早川徳次は、わが国最初の地下鉄（浅草－新橋）を計画・事業化したことで知られています。君島氏は、「土木とは縁のない一介の事務屋が、なぜ地下鉄の父とよばれるようになったか」ということに興味をいただき、東京都交通局に勤務のかたわら、30年間にわたって人物史として早川徳次研究に取り組まれたそうです。



講師：君島光夫氏

早川徳次は、大正3年イギリス留学時にロンドン地下鉄をみて東京にも地下鉄建設の夢を描き、20年かけて他人の援助なしに東京地下鐵道株式会社をたちあげ、46歳のとき夢を実現したことをご講演から知ることが出来ました。「土木は男のロマン」ということばを久しぶりに頭に浮かべたのは、筆者ひとりではないと思います。

また、君島氏のお話は、綿密な研究に裏づけされていて、地下鉄の歴史も含めてとても興味深いものがありました。留学先の現地写真や遺族との交流のエピソードも紹介され、対象に密着した人物史のおもしろみを教えていただきました。

### 夜は、忘年会

本サロンをもってことし最後の会合となるので、会場を参宮橋駅前の居酒屋へ移し、忘年会を開きました。講演では語りつくせなかった君島さんのお話、忘年会の時間もオーバーするほど尽きぬものでした。



## [国境なき技師団の活躍・・・第6回 CSN サロン開催報告]

開催日時：2009年6月8日（月）15時より 会場：オリンピック記念青少年センター会議室

参加者 18名

今回は、ゲストにNPO法人〔国境なき技師団〕事務局長松尾全士氏をお迎えし、その活動について講演していただきました。

本法人は、国内外の自然災害を軽減化し、人々の安全・安心な生活に貢献することを目的に、土木・建築技術者が中心となって、2005年に設立されました。いままでに手がけた、スマトラ沖地震・津波やバングラデシュサイクロンの復旧復興支援を事例に、その活躍ぶりをくわしく説明していただき、理解を深めることができました。一方、国内においては、傘下の学生グループにより、おもに小中学生を対象に、防災教育をおこなっているそうです。

NGO・経済界・政府が三位一体で組織している国際人道支援機関〔ジャパン・プラットフォーム（JPF）〕に、〔国境なき技師団〕が協力を申し出た際、JPFは大きな組織にもかかわらず、技術分野の人材に乏しかったので、おおいに喜ばれたとのこと。このお話をうかがい、シニアエンジニアの活動舞台として、NPOを作って主体的に動くことばかりでなく、大組織の一員としても（あるいは異分野の組織にあっても）、自ら考え自ら手を下すことができる技術者特有の持ち味を生かしてその存在価値を発揮できるのだな、と知りました。

CSNとは、また違った舞台で防災に取り組んでいる〔国境なき技師団〕の活動に、今後も期待し注目していきたいと思います。



盛りあがる懇親会 →

← インドネシアパダン地震観測支援の説明を熱心にきく



講演終了後、センター内のレストランで懇親会をもちました。辻田代表は、この日友人の葬儀で急きょ欠席にもかかわらず、いつにない大人数になり、話に花が咲きました。

## 【第5回 CSN サロン: 講演「コーポラティブハウスとまちづくり」報告】

今回は、NPO 法人都市住宅とまちづくり研究会（以下、「としまち研」）代表理事 杉山 昇氏を講師にむかえ、平成20年12月1日（月）15時から17時まで、国立オリンピック青少年総合センター会議室で13名が参加して開催されました。

杉山氏は、(株)間組で開発事業等に携ったあと、2000年に「としまち研」理事長に就任され、現在東京神田を中心に、地権者の共同建替えをコーポラティブ方式との組み合わせによる事業などを手がけています。

同氏は、仕事を通じて縁のできた神田で、再開発によって古くからの住人が立ち退きを余儀なくされ、都心部でありながら人口が減り、町内会活動もままならない現実をみて、過疎化した都心に住む人を呼び戻す方策を考え実践する組織として、本NPOを立ち上げたそうです。コーポラティブハウスは、一般的には「実費で住宅建設できる」、「自由設計ができる」などが特徴とされています。一方、「としまち研」スタイルは、地権者参加型のコーポラティブ方式として、地権者が土地を、入居希望者が建設資金を出資して組合をつくり、「・地権者が住み続け、商売を続けられる、・住戸内などの自由設計ができる、・高齢化・過疎化の進む都心に子育て世帯を含む多様な住民が増える」などの特色があります。「みんなでいっしょにつくるので、気心も知れ安心して入居できる」、「新住民も、地権者を橋渡し役として、町会などの地域社会にソフトランディングできる」という効果もあるとのこと。

現在までに、都心で11プロジェクトを実現させ、ことし10月には、これら密集市街地における共同化事業への取り組みが評価され、国土交通大臣賞が授与されています。

杉山代表の地域社会再生にむけての熱意と誠意が、この講演を通じてひしひしと伝わり、わがCSNも先輩に学ぶべきものが多いと思いました。〔高橋記〕



杉山講師〔写真中央〕

#### **【第4回 CSN サロン報告】**

第4回サロンを6月9日（月）に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催しました。午後3時から5時の時間帯であったにもかかわらず、今回も多数の参加を頂きました。講演テーマは「コミュニティビジネスの紹介」と題して、当NPOの辻田代表に講師をお願いしました。最新のソーシャルビジネスの実態やコミュニティビジネスの実態も交え興味深い内容でした。今回はもう1つ「浮体式橋梁の提案」と題して、会員の横川都市研究所の横川氏をお願いしました。オーストラリアから北海道、ロシア、アラスカ、シアトルを結ぶ環太平洋リニアモーターの壮大な構想のお話や、土木と建築の融合、現状の技術士や建築士などの資格制度など、広範囲に亘るお話しは本当に度肝を抜かれる思いでした。サロン終了後は恒例となりました懇親会を行い、参加者一同楽しいひと時を過ごしました。また、今回は一般の方も3名参加され、我々NPOメンバーとも交流を深めました。

#### **【第3回CSNサロン報告】**

第3回CSNサロンを12月3日（月）に初めて外部から講師をお招きして国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催しました。午後3時から5時の時間帯であったにもかかわらず今回も多数の方々の参加を頂きました。サロンのテーマは「今、求められるNBCRテロ対策」と題してNPO法人NBCR対策推進機構の理事長井上忠雄氏に講師をお願いしました。サロン終了後は忘年会を行い参加者一同楽しいひと時を過ごしました。

#### **【第2回CSNサロン開催報告】**

昨年の12月に引き続き第2回CSNサロンを6月11日（月）に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催しました。午後3時から5時の時間帯であったにもかかわらず今回も多数の方々の参加を頂きました。サロンのテーマは「事業継続計画（BCP）の現状と取り組み」と題して当NPOの辻田代表に講師をお願いしました。次回は12月3日（月）（テーマ：「今、求められるNBCRテロ対策」、講師 NPO法人NBCR対策推進機構 理事長 井上忠雄氏）を予定しています。サロン終了後は懇親会を行い参加者一同楽しいひと時を過ごしました。

#### **【第1回CSNサロン開催】**

12月18日（月）国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて第1回CSNサロンを開催しました。これは会員から定期的にこのようなサロンを開催して欲しいとのご要望にお応えして企画したものです。午後3時から5時の時間帯であったにもかかわらず多数の方々の参加を頂きました。今回のテーマは「バイオマスタウン・アドバイザーの役割」と題して当NPOの宇佐副代表に講師をお願いしました。「バイオマス・ニッポン」は地球温暖化防止、持続可能な発展のための循環型社会形成、農林水産業や地域の活性化等の推進のための国（主管は農水省）の施策でありその促進を目的にアドバイザーの育成事業が今年度より始まりました。アドバイザーの役割は自治体が計画するバイオマスタウン構想書策定にあたりアドバイスをこなうもので、我々のような中立・公正な立場での活動ができる技術者の活躍の場であると考えられます。講義では「バイオマス・ニッポン」の取組概要と人材育成事業（アドバイザー）についての説明があり、来年度の人材育成事業参加に向けた準備の呼びかけ等もありました。